

2018年5月16日

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<http://www.savechildren.or.jp>

国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン

ガザにおける衝突の激化を受け、パレスチナ自治区事務所代表の声明を発表

子ども支援の国際 NGO であるセーブ・ザ・チルドレンは、パレスチナ自治区ガザ地区での衝突が激化していることを受け、パレスチナ自治区事務所代表ジェニファー・ムーアヘッドによる声明を発表しました。

「今日 15 日も、ガザの子どもたちにとって悲劇的な一日となりました。14 日には、催涙ガスを吸った生後 8 ヶ月の女児ライラ・アルガンドールさんが犠牲になり、今日葬儀が営まれ、遺体が埋葬されました。現地のスタッフからの報告によると、ライラさんと家族は警備フェンスから 1 キロほど離れた場所で被害に遭いました。

14 日は、2014 年のガザ紛争以降で最大の犠牲者を出した日となりました。パレスチナ保健省によると、衝突で 6 人の子どもが命を落とし、220 人以上の子どもが負傷しました。さらにそのうち 150 人以上は、実弾による被害を受けています。今年の 3 月以降 14 日までに犠牲になった子どもは、ライラさんを含め、少なくとも 13 人にのぼります。

3 月の抗議デモ開始以前から、ガザでは病院が機能不全寸前で、病床利用率は 90%に達していました。衝突で大量に発生した新たな負傷者は、病院の廊下で治療を受けたり、完治する前に家に戻されたりしています。世界保健機関(WHO)によると、適切な医療措置を受けるためにガザ地区から出ることを許可される人はほんのわずかで、このままでは子どもたちが必要な治療を受けられず、合併症の発症リスクが高まることも懸念されます。

衝突で負傷した子どもを持つ親や家族は、状況に対処するため懸命に努力はしているものの、10 年に及ぶイスラエルによる封鎖や国際ドナーの関心の低下によってこれまでも無力感にさいなまれてきた上に、治療を継続するための経済的な余裕がなく、子どもの将来に大きな不安を感じていると言います。加えて、ヨルダン川西岸を統治するパレスチナ自治政府とパレスチナ自治区ガザ地区が分断されていることによる、現在も続く電力供給のカットや、ガザ地区の公務員給与未払いなどが、状況をさらに困難にしています。

子どもを犠牲にすることは、いかなる正当化もできません。セーブ・ザ・チルドレンは、全ての当事者に対し、ジュネーブ条約、国際人道法・人権法にのっとり、子どもたちが衝突から守られる措置をとるよう求めます。セーブ・ザ・チルドレンはまた、全ての当事者が自制し、抗議活動が平和的に行われ、イスラエルの人々とパレスチナの人々双方の尊厳と安全が確保されるよう、当事者間で、今回の衝突の要因となっている長期的な課題に取り組むことを強く求めます。」

<セーブ・ザ・チルドレンのガザにおける活動と組織概要>

セーブ・ザ・チルドレンは、ガザで活動する最大規模の NGO の一つで、子どもたちやその家族に対して教育支援、子どもの保護、食料・生計支援、心理社会的支援、就労支援を行っているほか、パートナー団体を通じて水・衛生支援なども行っています。

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって、生きる、育つ、守られる、参加する、「子どもの権利」が実現されている世界を目指して活動する子ども支援の国際 NGO です。1919 年に英国で設立され、現在、日本を含む 29 の国と地域の独立したメンバーが連携し、約 120 ヶ国で子ども支援活動を展開しています。

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 広報 田代範子、太田しのぶ

TEL: 03-6859-0011 E-mail: japan.press@savethechildren.org

ガザ地区およびヨルダン川西岸地区のスポークスパーソンへの取材のお申込み(英語)

Simona Sikimic +962 791 799 287(アンマン)